

## ご 依 頼

この手紙は、これまでに沢田がお手伝いしてラオスへ学校校舎や生徒寮を建ててくださった人たちへお送りしています。内容は「基金設立趣意書」へのご理解と基金への寄金のお願いです。「基金」は、校舎や生徒寮を供与した後「はい、おしまい」としないで、細く長く「事後支援を何かできないか」というご指摘や要望を受けて立案したものです。

奨学金は皆様が建ててくださった学校（寮）とその周辺学校、および DEFC が運営しているタンミサイ図書館の周辺学校の生徒を対象としています。一つの学校当たり初回は 10 名以内、年次ごとに発生するであろう課題を調整しながら支給生徒数と対象学校を増やします。概算は初年度 70 万円（現地業務費、人件費、渡航費補助を含む）です（実施案別紙）。この奨学金を基金と名付ける理由は継続性が必要なため少なくとも 3 年分ほどの資金を確保しておきたいためです。金利をあてにした運用はいたしません。

実行可能性を検証するため、本年 2 月に学力試験を 4 か所でやってきました。試験は日本の小学校卒業程度の算数、中学校及び高等学校卒業程度の数学と英語です。結果は（予想した通りでしたが）とてもひどいものでしたが、地方より都市部の学校のほうがずいぶんましでした。いずれのところでも出来る生徒が散見しました。生活状況調べと奨学金支給方法に課題を残しますが、この活動がこのやり方で実施できることを確かめました。今年の 9 月初め、ラオス新学期に合わせて開始できるように準備しています。

この奨学金の目標、「発足 10 年後（そのころ、私は引退していますが）にこの奨学金を受けた生徒の幾人かが、日本（や外国）の専門学校や大学の入学試験

に合格できる」を達成するためには都市部での質の良い学校作りや、高等学校への奨学金提供が求められます。

このために現在、Ms. サイサモン（私が最も信頼するラオス人、タンミサイ図書館の運営管理者、沢田 JICA 時代の事務担当者）が図書館と同じ敷地内に建てている私立小学校校舎の建設支援を始めています。私とラオスで農村開発の事業を始めている I 様がそれぞれ 250 万円を支援することで一期工事を完成させる計画です。校舎完成後ここも奨学金対象学校として、地方の対象校の生徒や先生の勉強や教育支援を行いたいと考えています。

地方への学校建設支援はこれまで通り、お申し出をいただいております。

皆様のご意見、できることならご賛同とお力添えいただけたらありがたいことです。

敬具

沢田誠二

610-0353 京田辺市松井が丘 1-23-4、0774-63-2060、0774-63-2060

### 「沢田ラオス育英基金設立趣意書」

私、沢田誠二は縁あって“ラオスの教育”に係りました。ラオス教育省勤務を終了後、協力者を得てNPO活動としてDEFC (Demining and Education For the Children, 爆弾ではなく学校を、地雷ではなく教科書を!)を始め、すでに3年が過ぎました。この間、たくさんのお力添えで幾つかの活動が叶ってきております。学校校舎などの建設支援活動は、図書館を入れるとすでに10件になります。これにより、それぞれの学校や地域の教育環境が少しは良くなり、子どもたちの就学率が上がっていることは確かです。一方この間、この活動の目標や継続的な支援のあり方について模索してきました。

30年 - 50年先のことを考えます。地球規模では“温暖化の進行による生物生存環境の変化”、人間世界では“誰でもが世界のあちこちで起こっていることを容易に知ることができる”という情報の共有化のもと経済体制は一つになって行くことでしょう。固有文化や伝統を尊重する価値観や、これの基づく国際相互理解や協力が進むことでしょう。一方、国や国境の壁はあまり変わらず、水その他の資源の枯渇と争奪のための争い、これによる貧富の拡大、“個人や少数の人たちによる国や地域・組織又は不特定多数に対する暴力(テロリズム)”は、むしろ増加していくかも知れません。私たちの国を含むいわゆる先進国では、高齢化と労働力不足が深刻になり、開発途上国からの労働力の輸入は定常化することでしょう。

これらに対応するための社会制度設計や科学技術開発はますます望まれます。放置すれば拡大するであろう貧困や暴力など負の要因を未然に取り除く知恵も求められています。これらのために今から行うべき対応は、“教育”に他なりません。自国内の次世代への教育はもとより、国境を超えた教育支援や協力が望まれます。人は生まれる時と場所は選ぶことはできませんが、教育は時と場所に合わせてどこでも可能かつ有効な方法と手段だからです。少しは余裕があるものたちが、現在はもとより将来にも厳しい生存と教育状況が予測される子どもたちに、読み書きソロバンの基礎教育から国際的に通用する能力を持った

人材育成まで、支援することは “30 年先への投資 “ として意義あると思えます。

ラオスは東南アジア大陸部にある内陸（海がない）国で、国連認定の最貧国、国民の半数が一日 100 円程度の生活をしているところです。国土の 3 分の 1 に 30 年前の内戦とヴェトナム戦争時の不発弾が残っており開発を妨げています。国民教育制度が動き出してまだ 10 数年で、学校校舎、教員、教科書など全てにおいて欠乏、教育全体の質と量及び生徒の学力は周辺国と比べても低い状態です。国の安定的発展、中間層の増加、質の高い労働力確保のための教育力の向上が望まれます。

この育英基金はラオスの教育改善を目的とし、「発足 10 年後にこの奨学金を受けた生徒の幾人かが、日本（や外国）の専門学校や大学の入学試験に合格できる」ことを目標とします。基金は私が共同代表を務める特定非営利活動法人 DEFC に所属し、管理運営と会計は資金提供者による委員会が行います。活動は（1）奨学金提供と（2）学校校舎などの建設支援の二つです。活動（2）はこれまで通り、資金提供者を得て実施します。活動が軌道に乗ればほかの支援、たとえば教材提供や教員研修会実施なども行いたいものです。

活動（1）の奨学金概要は以下です。これまでに支援してきた学校とその周辺学校の奨学金希望生徒を対象として、学業成績と生活状況を基準にして数名を選びます。奨学金は 1 年間単位で行い、初年度は 70 名程を予定します（別紙）。目標達成のため、都市の小学校や中高等学校生徒への奨学金支給も行います。

学校建設支援はこれまで通り資金提供者を受けて、お手伝いします。

趣意書起案者 沢田誠二 DEFC 共同代表

610-0353 京田辺市松井が丘 1-23-4